アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No.188/2022 年 9 月

【1】一種研開催報告(8月，9月)

8月の一種研が栃木県産業会館で開催されました．A・P研チュートリアル講演，IEEE AP-S Tokyo Chapter特別講演を含め8件の講演がありました．

A･P研チュートリアル講演では，KDDI総合研究所の菅野一生氏より，複数の端末と複数のアクセスポイントを一つの大きなMIMOチャネルと考えることによりエリア内のユーザ品質の均一化を図るCell-Free massive MIMOの研究開発状況について解説いただきました．

IEEE AP-S Tokyo Chapter特別講演では，ソニーの小曽根徹氏より企業における端末用アンテナの設計および評価について，端末仕様，各種無線規格および周波数，マルチアンテナに対応したアンテナ配置法，アンテナ部品設計，さらには実使用状態の評価方法などを俯瞰的な観点で解説いただきました（写真１）．

写真 1．8 月の講師と Chair,委員長
（左から，石井 Chair，小曽根さん，菅野さん，山田委員長）

9月の一種研は，14日-16日の3日間，愛媛県美術館を現地会場として開催されました．マイクロ波（MW）研究会と併催であり，MW研招待講演2件，A・P研チュートリアル講演，IEEE AP-S Kansai Joint Chapter特別講演を含め36件の講演がありました．

写真2．9 月 A･P 研チュートリアル講演
（講師：NEC 平部氏）

A・P研チュートリアル講演では，NECの平部正司氏より，OAM(Orbital Angular Momentum)多重無線伝送の開発状況を解説いただきました．OAMモードによる高多重化の原理を説明いただいた後，5GHz帯，80GHz帯，150GHz帯の実機を用いた実験状況および実験結果が示されました．150GHz帯の実験結果より100mの距離で伝送速度100Gbpsの実現の可能性が示されました（写真２）．

IEEE AP-S Kansai Joint Chapter特別講演では，「コンテンツツーリズムと愛媛――正岡子規から「坂の上の雲」まで」というタイトルで，新居浜高専の沼田真理先生より講演いただきました．まずは，いきなりクイズ形式で正岡子規の人となりを紹介する楽しい講演でした．コンテンツツーリズムとは映画やドラマのロケ地や原作の舞台をめぐる旅のことらしく，アニメの「聖地巡礼」がその一種であることを知りました．講演の中では，愛媛には「坊ちゃん」の舞台である道後温泉，俳誌「ほととぎす」創刊の地，「坂の上の雲」ミュージアムなど，コンテンツツーリズムにつながる多くの観光資源があり，地域活性化に大きく貢献していることが紹介されました．

写真3．AP-S Kansai 特別講演
（左から，小西 Chair，沼田先生，内藤 Vice chair，山本 Treasurer，山田委員長）

【2】A･P関連　論文･レター特集号　論文募集案内

2023年発行予定のA･P関連の論文･レターの特集号が企画され，来る年末から年始にかけて投稿〆切が設定されています．特集号は，発行日が決まっていますので，一定の時期までに確実に成果に結び付けたい方(そうでない方も)，積極的にご投稿ください．

【2-1】和文論文誌B特集号

「電波で未来社会を拓くアンテナ･伝搬及び関連システムの論文特集」の論文が募集されています．和文で

すので学生や若手の方でも比較的書きやすいかと思います．全国大会や研究会の発表内容を充実化させて，積極的なご投稿をお願い致します．概略スケジュールおよび編集体制は下記のとおりです．

投稿締切：2023年1月12日(木)，第1回判定通知：2023年3月中旬，発行月：2023年11月号

編集委員長：木村雄一(埼玉大)，編集幹事：西本研悟(三菱電機)，西正博(広島市大)

【2-2】ComEX ISAP2022関連小特集号

ComEXは電子情報通信学会のオープンアクセスレター誌で，文字数を1,500ワード，図表の数を3つまでに制限する事で迅速な査読と速報性を実現しています．今回，ISAP2022をMain Topicsとして企画されていますが，ISAP2022で発表されていない内容でも構いません．概略スケジュールおよび編集体制は下記のとおりです．一度不採録になった場合でも適切に修正した論文を本小特集に再投稿できるように，2回の締切が設定されています．また，著者全員が非会員であっても投稿できます．

第1回投稿締切：2022年12月2日(金)，第2回投稿締切：2023年2月10日(金)

編集委員長：藤元美俊(福井大)，編集幹事：西山英輔(佐賀大)，齋藤健太郎(東京電機大)

【3】第3回ベーシックワイヤレス(BWS)開催案内

A・P研ではA・P分野研究者の基礎的な技術固めを目的として，BWSを開催しています．その3回目として，移動通信における電波伝搬解析，信号検出，機械学習の基礎となる確率統計に着目した基礎講座が開催されます．講師は北海道大学の大鐘武雄先生で，大学で習う確率統計が電波伝搬および無線システムでどのように利用されているかを，例を交えながら説明していただけます．申し込み締め切りは2022年10月14日(金)です．是非，受講を検討ください．詳細はA・P研HPをご覧ください．

【4】副委員長の戯言

◆似て非なるもの，あれこれ．

以前，ほうき星と流れ星の違いが判らない学生がいるという話をしましたが，他にも似て非なるものを紹介します．(※一部，筆者の独断と私見が含まれています．ご了承ください．)

[1](a)ビーチボールバレーと(b)ビーチバレーボール：(a)はやわらかいビーチボールを使ったレクリエーション的なゲーム，(b)は砂浜の上で2対2でバレーボールをやるという過酷な戦い．

[2](a)ROMと(b)LOM：(a)は書き込み出来ない読み出し専用の半導体「Read Only Memory」，(b)はWeb会議等で一言も発言しないで聞いているだけの「Listen Only Member」．(つい，LOMになっていませんか？)

[3](a)御前崎と(b)尼御前：(a)は東に駿河湾を，南に遠州灘を望む静岡県の岬．(b)の尼御前(岬)は石川県加賀市にある日本海に面した岬である．この二つ，全く別物ですが，ときどき，「あれっ，どっちだっけ？」と思うことがあります．昔，菊間先生も同じようなことをおっしゃっていました．

[4](a)アンテナ伝搬と(b)アンテナ・伝播：(a)はアンテナや伝搬を表す「一般名詞」，(b)は電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会を表す「固有名詞」．

[5](a)研究会と(b)研究専門委員会：(a)は一般的には，研究発表や検討を行うイベントの総称，(b)は研究会を運営する組織．ただし，例えば「A・P研究会」などは(a)(b)両方に使われる．

[6](a)ttoruと(b)ftoru：お二人とも同じ会社に所属し，ともにA・P研で活躍されているtoruさんですが，全くの別人です．Time domain toruとFrequency domain toruではありません．(a)は実際に使用されているメールアカウント名，(b)は(a)になぞらえた愛称．(一部の人しかわからなと思います．すいません．)

◆一回休み！

2021年5月から「お知らせ」を担当するようになって，毎月必ずお届けしていたのですが，先月は，ついにお休みさせていただきました．あまりネタがなかったこと，筆者がしばらく調子を崩していたことなどが理由です．今後は，なるべく休まず発行していきたいと思います．

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長　藤元美俊（福井大学）
E-mail：ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)
AP-NET：A・P研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて
A・P研HP：https://www.ieice.org/cs/ap/